

市内全小・中学校が 「コミュニティ・スクール」へ

コミュニティ・スクールとは「地域 みんなでつくる学校」のことです。これまでは、学校のことは先生にお任せすることが多くありましたが、これからは保護者や地域のみなさんも学校運営のパートナーになります。市では令和4年度から導入し、今年度、市内小・中学校全校がコミュニティ・スクールとなりました。今後も「地域とともにある学校」として歩みを進めていきます。



文部科学省
ホームページ

教えて！コミュニティ・スクール

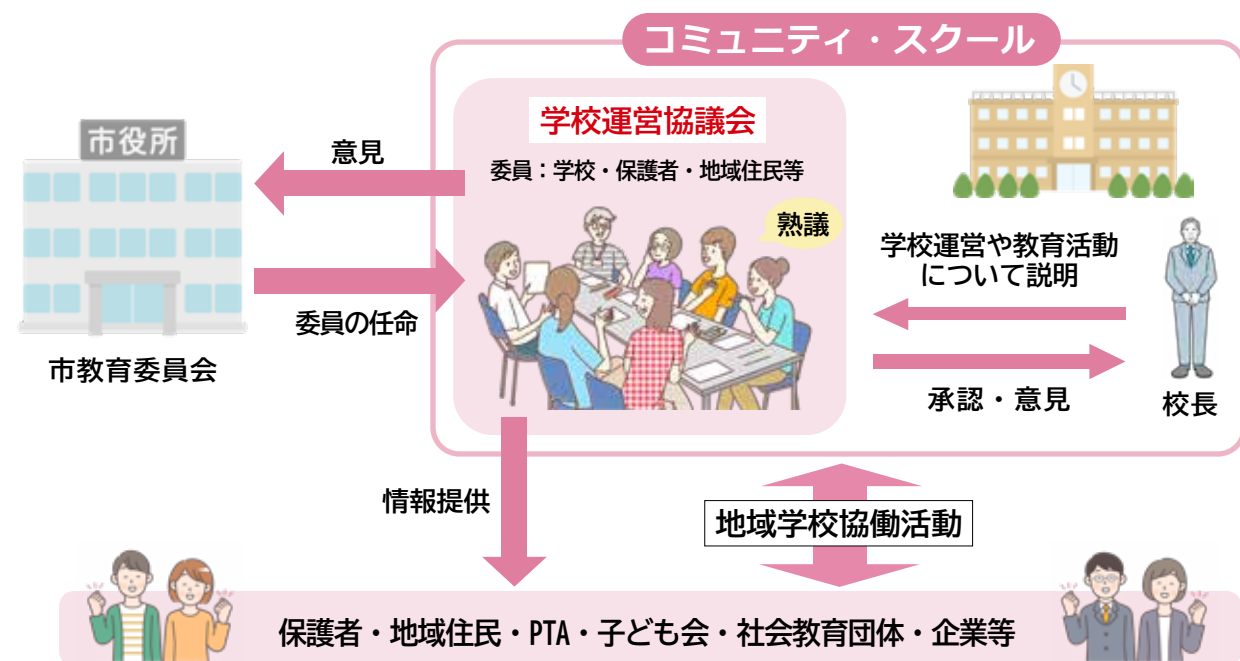
具体的に何が変わるの？

地域の人や保護者の代表が、学校の運営に参加するようになります。学校と地域が「こんな子どもを育てよう」という目標をひとつにして、一緒に学校を良くしていくための意見を出し合います。

どんなことをするの？

学校や地域が困っていることについて、みんなで解決策を考えます。例えば、子どもたちが安全に登下校できるようにすることや災害に備えた地域のつながりを作ることなどを「じっくり話し合う（熟議する）」ことで、地域全体がより良くなるように取り組んでいきます。

コミュニティ・スクールの仕組み



【学校運営協議会】 学校、保護者、地域住民の代表が集まる会議です。教育委員会から任命された委員が、学校の経営方針に意見を出し、承認します。

【地域学校協働活動】 地域と学校がパートナーとして連携・協働して行うさまざまな活動のことです。
（例）ボランティア活動、社会奉仕体験活動、自然体験活動、その他の体験活動、総合的な学習の時間などで地域の専門家が学習を支援する活動、地域住民による登下校の見守りや部活動の支援など

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

パートナーとしての連携「話し合って一緒に汗をかく」

学校と地域がバラバラに動くのではなく「パートナー」として同じ目標を持つことが重要です。「みんなで話し合って決め（コミュニティ・スクール）」、「みんなで協力して動く（地域学校協働活動）」というサイクルが回ることで、子どもたちの成長を支える理想的な環境が作られていきます。

コミュニティ・スクール

学校運営協議会で学校の運営方針を承認したり、課題解決のための作戦を練ったりする「考える役割」を担います。

地域学校協働活動

地域の専門家による学習支援や体験活動のサポート、登下校の見守りなど、実際に子どもたちと関わる「行動する役割」を担います。

連携することで期待される効果「地域とつながる・地域がつながる」

学校・教職員

地域の人々の力を借りることで授業がより楽しくなり、学校が抱える課題を地域と一緒に解決できるようになります。



熟議の様子(真岡西中学校)



クリーン活動(物部小学校)

子どもたち

地域の大人とたくさん出会うことで、自分の住む町がもっと好きになり、社会をより良くしていこうという心や自信が育ちます。



炊き出し体験(中村中学校)

地域

子どもの成長に関わることで、地域に新しいつながりや生きがい生まれます。また、災害などの「もしも」の時に助け合える絆も強まります。